

(1) 地質・土質等のデータ (ボーリング柱状図、土質・地質断面図、室内試験等)

ボーリング柱状図

調査名 _____

ボーリングNo. _____

事業・工事名 _____

シートNo. _____

ボーリング名		調査位置		北緯	
発注機関		調査期間		東経	
調査業者名		主任技師		ボーリング責任者	
電話 ()		現代人		コア鑑定者	
孔口標高	m	角	方	試錐機	ハンマー
総掘進長	m	度	向	エンジン	落下用具
180° 上		270° 西		水平0°	
90° 下		90° 東		使用機種	
90°		180° 南		ポンプ	

標尺	層厚	柱状	土質	色	相対	相対	記号	孔内水位 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内試験
									深	10cmごとの 打撃回数	打撃回数 / 貫入量	N 値			
(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	0	10	20	30	(m)	(m)	(m)
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
0															

標尺	層厚	柱状	土質	色	相対	相対	記号	孔内水位 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内試験
									深	10cmごとの 打撃回数	打撃回数 / 貫入量	N 値			
(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	0	10	20	30	(m)	(m)	(m)
4															
5															
6															
7															
8															
9															
0															

〈凡例〉

柱状図および土質区分

第1分類			第2分類			第3分類		
区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様
土	礫 (G)	●●●●	砂	質 (S)		岩	硬 岩 (HR)	
質	礫質土 (GF)	●●●●	シルト質 (M)		石	中硬岩 (MR)		
材	砂 (S)	●●●●	粘 土 質 (C)		材	軟岩、風化岩 (WR)		
料	砂質土 (SF)	●●●●	有 機 質 (O)		料	玉 石 (B)	○	○
	シルト (M)		火山灰質 (V)			浮石 (軽石) (Pm)	△	△
	粘性土 (C)		玉石混り (-B)		特	シラス (Sl)	△	△
	有機土 (O)		砂利、礫混り (-G)		殊	スコリア (Sc)	△	△
	火山灰質粘性土 (V)		砂混り (-S)		土	火山灰 (VA)	△	△
	高有機質土 (腐植土) (Pt)		シルト混り (-M)		材	ローム (Lm)	△	△
			粘土混り (-C)		料	風ボタ (Kh)	△	△
			有機質土混り (-O)		マ	サ (WG)	△	△
			火山灰混り (-V)		表	土 (Sa)	△	△
			貝殻混り (-Sh)		埋	土 (Fl)	△	△
					廃	棄物 (W)	△	△

試料採取方法

① シンウォールサンプラーによる
② デリソンサンプラーによる
③ 貫入試験器による
④ フォイルサンプラーによる
⑤ () による

備考

土質調査用ボーリング柱状図様式

図 2-42 ボーリング柱状図

(2) 土工設計全般

【道路詳細設計 6/11】普通道路

土 工

項目	単位	示方書の規定	業務での採用	判定		報告書頁	
				報告書	設計図		
地形。地質	設計に於いて特に留意すべき地形、地質について述べる。以下参照 ・道路土工一切土工・斜面安定工指針p137、6-3-2(1)～(10) 特に注意の必要な切土 ・道路土工盛土工指針 p102、4-3安定性の照査を必要とする盛土						
斜面安定	最大盛土高	m	指針解表4-3-2以上は要検討				
	最大切土高	#	指針解表6-2以上は要検討				
	盛土	指針4-3安定の検討を必要とする盛土の検討有無	検討を行い法勾配、対策工等を決定する				
	切土	指針6-3-2特に注意の必要な切土に対する検討有無	検討を行い法勾配、対策工等を決定する				
のり面勾配	盛土	H≤5.0m	便覧標準値 1.5				
		H>5.0m	便覧標準値 1.8				
	切土	土	粘性土	指針解表6-2			
		砂	砂質土	#			
		軟岩	風化岩	便覧標準値 0.7～1.2			
		硬岩	軟岩	便覧標準値 0.7			
小段	盛土	幅(m)	1.5				
		高さ(m)	5.0				
	切土	幅(m)	1.5				
		高さ(m)	7.0				
	幅広小段	幅(m)	3.0m程度				
		設置法高(m)	20m以上の長大法面				
	小段排水	位置	3段毎				
		盛土	設置				
のり面保護工	植生工	盛土	のり面保護工選定フローより選定				
		切土	土 砂	# #			
			軟 岩	# #			
	構造物	硬 岩	# #				
			# #				
			# #				
保護路肩	盛土部		路肩排水構造より決定				
	切土部	m	1.5 設計便覧図2-8-2				
法尻小段			0.5～1.5				
路床	道路横断方向		設計便覧p2-28				
ナリ付け	道路縦断方向		設計便覧p2-28～29				
ラウンディング	切土のり肩		設計便覧図2-6-9				
ディンク	切土両端		設計便覧図2-6-10				
	段切り		設計便覧図2-7-1				
幅杭	幅杭表の有無						
	余裕幅		設計便覧表1-5-1、表1-5-2				
ナリ付け	片勾配	回転軸の位置	構造令p366				
		緩衝縦断曲線の有無					
	拡幅	拡幅位置					
		拡幅方向		原則内側			
	ナリ付け方法		構造令p-375～378				

近畿地整
設計点検チェック
シート
(H24.4)

図 2-43 設計業務等のチェックシート (道路詳細設計)

(3) 切土設計

【鉄筋挿入工(ロックボルト)併用のり砕工 11/11】

基本設計条件		設定値				判定
計画測点						判定
待入ハン	Dh=	m	Dv=	m		判定
枠断面	b=	cm	h=	cm		判定

土質条件		設定値				判定
項目	全体法面	1段目	2段目	3段目	4段目	判定
地盤の種類						
粘着力 C (N/mm ²)	C=		C=	C=	C=	
せん断抵抗力 φ (度)	φ=		φ=	φ=	φ=	
単位体積重量 γ (kN/m ³)	γ=		γ=	γ=	γ=	
周面摩擦抵抗 τ (N/mm ²)	τ=		τ=	τ=	τ=	

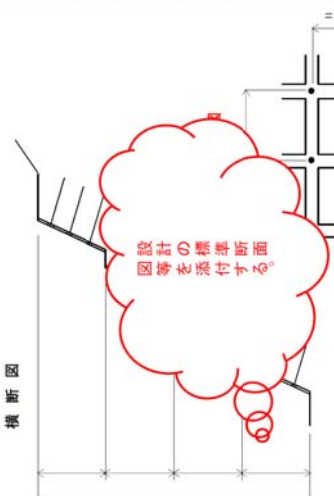
許容応力度 (N/mm ²)		業務での採用値				判定
項目	規定	業務での採用値				判定
設計基準強度	18					
許容曲げ圧縮応力度	7					
許容せん断応力度	0.4					
許容付着応力度 (異形鉄筋)	1.4					
許容引張応力度	196					
許容せん断応力度	80					

示方書等の規定		業務での採用値				判定
項目	規定	業務での採用値				判定
注入材の設計基準強度	18	24	30	40以上		
鉄筋の種類(異形鉄筋)	1.4	1.6	1.8	2		

凡例

手	判定の評価
力	○:適切
入	△:要検討
設計	□:不適切
照	■:不適切

① 土質条件



② 許容応力度 (N/mm²)

項目	規定	業務での採用値	判定
設計基準強度	18		
許容曲げ圧縮応力度	7		
許容せん断応力度	0.4		
許容付着応力度 (異形鉄筋)	1.4		
許容引張応力度	196		
許容せん断応力度	80		

③ (3) フリーフォームの設計

項目	単位	全体法面	1段目	2段目	3段目	4段目	判定
曲げモーメント	kN-m	M=	M=	M=	M=	M=	
せん断力	kN	S=	S=	S=	S=	S=	
有効高	mm	d=	d=	d=	d=	d=	
鉄筋		D × 本	D × 本	D × 本	D × 本	D × 本	
モルタルの圧縮応力度	N/mm ²	σ _c =	σ _c =	σ _c =	σ _c =	σ _c =	
鉄筋の引張応力度	N/mm ²	σ _s =	σ _s =	σ _s =	σ _s =	σ _s =	
モルタルのせん断応力度	N/mm ²	τ _c =	τ _c =	τ _c =	τ _c =	τ _c =	
モルタルと鉄筋の付着応力度	N/mm ²	τ _c =	τ _c =	τ _c =	τ _c =	τ _c =	

③ (1) 補強前の安定解析

項目	規定	業務での採用値				判定
地質						
単位体積重量 γ (kN/m ³)	γ=		γ=	γ=	γ=	
内部摩擦角 φ (度)	φ=		φ=	φ=	φ=	
現状安全率 F _{so}	F _{so} =		F _{so} =	F _{so} =	F _{so} =	
計画安全率 F _{sa}	F _{sa} =		F _{sa} =	F _{sa} =	F _{sa} =	
必要抑止力 P _r (kN/m)	P _r =		P _r =	P _r =	P _r =	

③ (2) 補強後の安定解析

1) 設計条件

項目	規定	業務での採用値				判定
補強材の許容引張応力度 (SD345) σ _{sa} =200	σ _{sa} =		σ _{sa} =	σ _{sa} =	σ _{sa} =	
のり面工の低減係数 (のり砕工) μ=1.0	μ=		μ=	μ=	μ=	
設計引張力の低減係数 λ=0.7	λ=		λ=	λ=	λ=	
引張に対する安全率 (側面周面摩擦係数安全率)	F _{sa} =		F _{sa} =	F _{sa} =	F _{sa} =	
注入材と補強材の許容付着応力度 τ _a (N/mm ²)	τ _a =		τ _a =	τ _a =	τ _a =	
側面周面摩擦抵抗 τ (N/mm ²)	τ=		τ=	τ=	τ=	

2) 補強後の安全率

項目	規定	業務での採用値				判定
最小安全率 F _s	F _s =		F _s =	F _s =	F _s =	
すべり応力 QIN (m)	Q=		Q=	Q=	Q=	
補強材による抵抗力 S1IN (m)	S1=		S1=	S1=	S1=	
補強材による抵抗力 S2IN (m)	S2=		S2=	S2=	S2=	
補強材による抵抗力 S3IN (m)	S3=		S3=	S3=	S3=	

3) 補強材の設計引張力

項目	規定	業務での採用値				判定
補強材の許容引張力 T _{sa} (kN)	T _{sa} =		T _{sa} =	T _{sa} =	T _{sa} =	
補強材の許容摩擦抵抗力 T _{sa} (kN)	T _{sa} =		T _{sa} =	T _{sa} =	T _{sa} =	
設計引張力 T _d (kN)	T _d =		T _d =	T _d =	T _d =	
補強材の設計引張力 T _m (kN)	T _m =		T _m =	T _m =	T _m =	

4) 補強材の設計引張力

項目	規定	業務での採用値				判定
補強材の許容引張力 T _{sa} (kN)	T _{sa} =		T _{sa} =	T _{sa} =	T _{sa} =	
補強材の許容摩擦抵抗力 T _{sa} (kN)	T _{sa} =		T _{sa} =	T _{sa} =	T _{sa} =	
設計引張力 T _d (kN)	T _d =		T _d =	T _d =	T _d =	
補強材の設計引張力 T _m (kN)	T _m =		T _m =	T _m =	T _m =	

2) 補強材諸元

項目	規定	業務での採用値				判定
補強材径 D	D=		D=	D=	D=	
断面積 (鋼筋径 1mm)	A _s =		A _s =	A _s =	A _s =	
断面積 d (mm)	d=		d=	d=	d=	
打設角度 (のり面に列し) δ°	δ=		δ=	δ=	δ=	
補強材長 l (m)	l=		l=	l=	l=	
定着長さ l _o (m) (補強材長×付着係数)	l _o =		l _o =	l _o =	l _o =	

近畿地整
設計点チェック
シート
(H24.4)

図2-44 設計業務等のチェックシート(鉄筋挿入(ロックボルト)併用のり砕工)

(4) 盛土設計

近畿地整
設計点検チェック
シート
(H24.4)

照査結果一覧表

基本設計条件		設定値				判定
計画測点	NO.	+	+	+	+	+
軟弱地盤の層数						
軟弱地盤の深さ						
盛土高						
盛土幅員						

① 地盤条件		①-1 自然地盤の土質定数				判定
項目	第1層	第2層	第3層	第4層	判定	
土質名	0	0	0	0	0	
層厚 (m)	0	0	0	0	0	
N値	0	0	0	0	0	
自然含水比 W _n (%)	W _n	W _n	W _n	W _n	0	
間ひ率比 e _o	e _o	e _o	e _o	e _o	0	
比重 G _s	G _s	G _s	G _s	G _s	0	
土の水中単位体積重量 γ _t (kN/m ³)	γ _t	γ _t	γ _t	γ _t	0	
液性限界 WL(%)	WL	WL	WL	WL	0	
塑性限界 Wp(%)	Wp	Wp	Wp	Wp	0	
塑性指数 I _p (%)	I _p	I _p	I _p	I _p	0	
象形係数 E ₅₀ (N/mm ²)	E ₅₀	E ₅₀	E ₅₀	E ₅₀	0	
圧縮係数 E _{pc} (N/mm ²)	E _{pc}	E _{pc}	E _{pc}	E _{pc}	0	
強度増加率 m	m	m	m	m	0	

①-2 盛土および軟砂の土質定数		判定			
項目	示方書等の規定	業務での採用値	判定	計算書	判定
単位体積重量 γ _E (kN/m ³)	20	1.2.3	0	0	0
砂質土、砂	19	γ _E			
粘着力 c _u (kN/m ²)	18	1.2.3	0	0	0
せん断抵抗力	—	CU			
せん断抵抗力	—	φ			
せん断抵抗力	—	φ _U			
せん断抵抗力	—	γ _E			
せん断抵抗力	—	C _d			
せん断抵抗力	—	φ _d			
せん断抵抗力	—	φ _d			

路体部
γ_E=
C_u=
φ_d=
盛土の条件

盛土期間
0

盛土工程
2 4 6 8 10 12 14 16 18 (月)

路体部
γ_E=
C_u=
φ_d=
盛土の条件

盛土期間
0

盛土工程
2 4 6 8 10 12 14 16 18 (月)

② 設計目標値		示方書等の規定		業務での採用値	判定
項目	1. 橋脚・高架等の橋脚部 2. その他の区間	ΔS=10~30cm	ΔS=	1.2	0
橋脚・高架等の橋脚部					
その他の区間					
基礎地盤の破壊に対する安全率	Fs=1.2以上	Fs=			0
地震時					
液状化抵抗率 FL	FL≤10 (液状化あり) FL>10 (液状化なし)	FL=			0
液状化抵抗率					

③ 荷重条件		示方書等の規定		業務での採用値	判定
項目	HEC(m)	—	HEC=	0	0
盛土層厚	WL(kN/m)	—	WL=	0	0
交通荷重	ΔP(kN/m ²)	—	ΔP=	0	0
考慮する上層庄	(kN/m ²)	—			
地震力					

④ 沈下および基礎地盤破壊の安定検討		示方書等の規定		業務での採用値	判定
項目	ed(kN/m ²)	0	ed=	0	0
限界支持力	HEC(m)	0	HEC=	0	0
限界盛土高	P ₀ (kN/m ²)	0	P ₀ =	0	0
土かぶり圧	F _s =1.2	F _s =			
盛土内のすべり安全率	F _s =1.0	F _s =			
第1層	ΔP=	ΔP=			
第2層	ΔP=	ΔP=			
第3層	ΔP=	ΔP=			
第4層	ΔP=	ΔP=			
各土層の中央の深さの土質定数に基づいて算出される断力	ΔP(kN/m ²)				
基礎地盤の破壊の安定検討に用いる断力	M ₀ =	M ₀ =			

⑤ 盛土の沈下および安定計算結果		示方書等の規定		業務での採用値	判定
項目	S _i (cm)	—	S _i =	0	0
即時沈下	S _c (cm)	—	S _c =	0	0
圧密沈下	S ₀ (cm)	—	S ₀ =	0	0
全沈下	ΔS(cm)	—	ΔS=	0	0
90%沈下時間 (日)	1.2	1.2			
残留沈下 ΔS(cm)	F _s =1.2	F _s =			
安全率	F _s =1.0	F _s =			
常時					
地震時					

⑥ 軟弱地盤対策工の選定		示方書等の規定		業務での採用値	判定
項目	0	0	0	0	0
対策工の目的	0	0	0	0	0
考慮すべき条件	0	0	0	0	0
他家との比較検討	0	0	0	0	0
選定根拠	0	0	0	0	0
選定した対策工法	0	0	0	0	0

①-3 盛土速度		示方書等の規定		業務での採用値	判定
項目	3	1.2.3	3	3	0
盛土速度 (cm/day)	5	5			
高い粘土質土層	10	10			
低い粘土質土層					

図 2-45 設計業務等のチェックシート (軟弱地盤対策工 (基礎地盤解析))

(6) 施工記録 (構造物のカルテ等)

グラウンドアンカー
維持管理マニュアル

アンカーカルテ		都道府県名	東京	
		管理機関名		
管理番号		保全対象	道路	路線名・施設名
工事名		所在地		
受注業者		設計業者		専業者
位置図[縮尺 1/5,000 ~ 1/25,000 程度で当該位置が把握できるもの]		平面図[アンカーの配置が確認できるもの, 写真可]		
アンカー諸元		旧タイプアンカーの判定	旧タイプでない	
工法名		施工本数		施工延長
使用目的	斜面对策	準拠基準	土質工学会基準 (1976年)	
テンドンの種類	PC鋼より線	防錆方法	グラウトのみ	
受圧構造物	現場打吹付法枠	標準的な配置間隔		
施工記録				
設計計算書	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	アンカー構造図	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	標準断面図
引抜き試験記録	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	長期試験記録	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	品質保証試験記録
荷重計記録	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	荷重計数		荷重計の現状
履歴				
被災履歴	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	被災詳細		
補修・補強	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	補修・補強手法		
特記事項				
カルテ作成日		カルテ作成者		

図 2-47 施工記録(アンカーカルテ)

グラウンドアンカー
維持管理マニュアル

アンカーカルテ (個別)			評価	定期点検
【アンカー諸元】				
アンカー No.		施工年 (西暦)		工法名
タイプ		設計荷重		定着時緊張力
アンカー自由長		アンカー体長		全長
削孔径	φ 115m	アンカー傾角		アンカー水平角
定着方法	くさび	鋼材断面積		降伏荷重 T_{ys}
頭部処理	コンクリートキャッピング	受圧構造物		現場打吹付法枠

		評価	評価 I	評価 II	評価 III
【初期点検結果】		個数			
調査年月日		調査者氏名		調査時天候	晴れ
アンカー工法	旧タイプの有無	旧タイプでない			
調査・設計資料	<input type="checkbox"/> 地盤が腐食環境(Ⅲ) <input type="checkbox"/> 地下水が豊富(Ⅲ) <input type="checkbox"/> 劣化・風化しやすい地質(Ⅲ)				
アンカーの状態	アンカーの飛び出し	無し	飛び出し長	0.0 mm	
	荷重計の有無	無し	残存引張り力	不明	
頭部コンクリート	浮き上がり	無し	浮き上がり量	0.0 mm	
	破壊・部分的な欠損	無し	1mm幅を超える程度のクラック	無し	
頭部キャップ 支圧板	浮き上がり	背面に隙間(Ⅲ)	浮き上がり量	1.0 mm	
	材質劣化・腐食	無し	固定ボルトの脱落・腐食	有り(Ⅲ)	
	防錆油の流出による汚れ		有り(Ⅲ)		
受圧構造物	数mm幅以上の連続したクラック	無し	クラック幅	0.0 mm	
	受圧構造物の大きな変状	無し	沈下量	0.0 mm	
周辺状況	遊離石灰	有り(Ⅲ)	湧水	無し	
※判定基準：Ⅰが1つ以上、またはⅡが2つ以上、またはⅢ以上が3以上の場合、健全性調査が必要。 ただし、各項目において評価が重複する場合は、最も悪いものを1つだけ計上する。					
特記事項					
位置図 [対象アンカーの位置がわかるもの]			頭部状況 [頭部の状況がわかる写真]		
カルテ作成日		カルテ作成者			

図 2-48 施工記録(アンカーカルテ (個別))

施工記録表の例

道路土工
切土工・斜面
安定工指針
付録3

施設管理番号	K***H001	工事名	〇〇地区災害防除工事	上・下・他	上
路線名	一般県道〇〇線	所在地	〇〇県△△市□□	延長	75m
距離標	(自)18.625 (至)18.700	工期	(自)平成〇年△月□日 (至)平成〇年▽月◇日		
道路防災総点検対象項目	落石・崩壊	盛土	雪崩	点検年度	平成8年度
点検での総合評価	要対策	対応不要	防災カルテ	現道・旧道	現道
対象荷重	落石径 0.50m	落下高 25.0m	積雪深 2.5m	その他荷重	なし
当初設計	主な対策工 道路上方からの落石に対し落石防護擁壁を設置。また切土でポケットを確保。				
工事費	1千2百万円	明示された施工上の留意点	施工時の落石災害を仮設柵で防護する。		
(設計図面等添付)					
施工記録	変状等の概要	1. 破碎帯による崩壊 2. 基礎に未固結層			
施工時に見いだされた症状	状況	切土時に、破碎帯のため、切土面の1部が崩壊した。			
距離標	18.688	調査検討	調査ボーリングを実施し、破碎帯の分布範囲を確認した。		
施工種別	崩壊	対応	切土勾配を一部で緩くした。		
(状況説明図、拡大図、写真等添付)					
施工時に見いだされた症状	状況	落石防護擁壁端部で、岩盤線が深くなり、未固結層が露出した。			
距離標	18.698	調査検討	サウンディングで岩盤線を確認した。		
施工種別	基礎不良	対応	不良区間に置き換えコンクリートを設置した。		
(状況説明図、拡大図、写真等添付)					
(図面等添付も含め、用紙1枚に記載できない場合、別紙に記載する)					

図 2-47(c) 施工記録 (防災工事)

付表 3-5 (a) 防災カルテ様式(A) (落石・崩壊)

施設管理番号 M: * * * 0: 0: 1	点検対象項目 一 一般防護	落石・崩壊	路線名 一般国道**号	距離(倍) 1: 1: 2: 3: 5: 10: 20	(至)	延長 120m	地連・都道府県等名 〇〇県
事業区分 (一) 一般	道路種別 (有) (新) (修)	現道・旧道区分 現道	所在地 〇〇郡〇〇町字**	位置目印 肩起線印・ノット・フタ	北緯 34°39'10.0"	東経 132°11'37.0"	管理機関名 〇〇土木事務所
事前通行規制区間指定 (有) (新) (修)	規制基準 連続 200mm	時間 1mm	平日 2.520台/12h	休日 3.820台/12h	D I D 区間	該当・非該当 該当	管理機関コード * * * * *
【点検地点位置図】※スケッチと位置を明記する							
<p>（専門技術者のコメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当該斜面は、①からの落石とその下部斜面のすべり崩壊の発生可能性がある。 ○小規模な落石については、落石防止層があるが、すべり崩壊については、コンクリート付やブロック積層等の対策等について、定位置の有無を確認することが重要である。 ○①の清落層の亀裂の位置を、放き板により計画・管理する。 							
<p>観目すべき現状</p> <p>①コンクリート付上面清落層の亀裂の状況 (様式②-1参照)</p> <p>②、③コンクリート付上面の亀裂等の状況 (様式②-2参照)</p> <p>④、⑤ブロック積層のはら出しおよび 湧水 (様式②-2参照)</p> <p>⑥落石防止層の状況(①、④からの落石等の 有無)</p>		<p>点検の時期</p> <p>○春、秋(4月、11月)年2回程度の点検が 必要</p> <p>○必要時および箇所後は、約1週間程度継続 した点検が必要</p>		<p>想定される災害形態</p> <p>○①または②を重点としたすべり崩壊 (被災ランク2)</p> <p>○④からのφ20~30cmの落石 (被災ランク3)</p>		<p>対策工が必要</p> <p>1 2のどちらか対応するものに○印</p>	
<p>観目すべき現状</p> <p>① 対照工が必要</p> <p>2 カルテ対応</p>		<p>1、2のどちらか対応するものに○印</p>		<p>状況が出たときの対応</p> <p>○①~⑥に要状の連絡が認められた。 一必要に応じて通行規制および専門技術者に よる詳細調査を実施する。</p> <p>○④の落石防止層に新たな落石等の堆積 一落石の除去および専門技術者による落石層 の詳細調査を実施する。</p>		<p>連絡先 TEL 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇</p>	
作成月日 9年 3月 14日(天候:晴)	専門技術者名 防災 太郎	会社名 〇〇〇株式会社	TEL 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇				

道路土工
切土工・斜面
安定工指針
付録 3

図 2-48 (b) 点検記録 (防災カルテ様式 (落石・崩壊))